

機械商社 西華産業に学ぶ イントラネット構築の進むべき進路



ユーザ紹介
西華産業株式会社
設立：昭和 22 年 10 月 1 日
代表取締役社長：松尾 高精 様
資本金：67 億 2,800 万円
(平成 10 年 3 月 31 日現在)
売上高：2,500 億円 (平成 9 年度実績)
事業所数：国内 18ヶ所 / 海外 2ヶ所 /
海外現地法人 4 社
従業員数：382 名 (平成 10 年 4 月 1 日現在)
本社：〒100-0005
東京都千代田区丸の内 3-3-1
新東京ビル
事業内容：各種プラント、産業機械器具類、電子情報
システム機器類の販売および輸出入事業
URL：http://www.seika.com

これまでイントラネットについて話題になるのは、大企業のケースが大半であった。コンピュータに関する豊富なマンパワー、潤沢な資金、これらをバックグラウンドにしてのイントラネット推進の話が採り上げられてきた。だが、イントラネットによって業務変革や企業体質の強化を望んでいるのは、中堅企業も同様である。むしろ比率からすれば圧倒的に中堅企業のほうがニーズとしては多いであろう。

機械商社として着実な成長を遂げている西華産業はイントラネット化を推進し、確かな成功を納めつつある。西華産業はイントラネット推進に際し、中堅企業が共通に抱え得る問題をどのようにクリアしていったのか。これからイントラネットを考える中堅企業の人々にとっては興味津々のところである。同社IT委員会事務局清水 潔氏に話を聞いた。

中堅企業に共通の問題とは何か。

西華産業株式会社(以下西華産業)は、機械商社として着実に成長している中堅企業だが、同社取引先の情報システム化が急ピッチで進むなか、情報が生命線である商社がシステム化の対応に遅れることはその存在意義まで問われかねないという危機感から、平成9年7月にIT(情報通信)委員会を発足させ、次の5つのコンセプトでイントラネット推進構想を打ち出した。

経営情報・営業情報・管理情報の3つのカテゴリーが有機的に連携する情報システムを構築すること。基幹システムと新システムが共存すること。シンプルなシステム形態をとること。トップダウン方式でイントラネット化を推進すること。第一段階は当

面3年間とすること。

プランの手始めとして、パソコン1人1台の体制を作り、全社的な電子メール環境を整備することを目指すことにした。現段階では、Exchange Serverによるメール環境整備を図り、メールソフトとしてはOUTLOOKを活用しているが、パソコン1人1台体制に対応するための導入費用、サポート負荷などTCO増大の問題に直面していた。「当社の場合、TCOをいかに削減するかが最重要課題であった。」(清水氏)クライアント数に比例したソフトウェアライセンス料、教育コスト、メンテナンスコスト等々。イントラネットを推進する上で避けて通れない問題がこれらTCOの問題である。西華産業では、企業規模の割に全国に散らばる支店数が多いうえ、各拠点のメンテナンス要員は不在。本社でわずか数名のメンテナ

ス要員がいるのみである。従って、西華産業ではどのようにして総合的に運用コストを削減し、メンテナンスをおこなっていくかに頭を悩ませていた。

西華産業が直面していた問題は、イントラネットを推進する際にどの中堅企業も抱えうる問題である。西華産業の場合、問題を整



写真4 <イントラネット・スタートバック画面>

理してみると、以下の5点が大きくクローズアップされる。西華産業では、WebアプリケーションをJavaなどでゼロから開発するマンパワーはない。あったとしても多大な労力や人件費がかかるため、イントラネット推進の選択肢としては考えられない。企業規模に比べ支店数が多いという現状だが、各拠点にメンテナンス要員をおく人的余裕はない。

自社のニーズに合わせて業務アプリを運用しながら修正したいが、カスタマイズに労力とコストをかけられない。業務システムが変更になった場合、各クライアント毎に再インストールする手間やコストをかけられない。

データの入力や処理に関して、特定の部門や社員に負担をかけたくない。

西華産業はこれらの問題解決をWebアプリケーション構築ツールである

《intra-mart》に求めた。だが、intra-martを使って業務アプリケーションをゼロから構築したわけではない。では、どうやって?この点に関して西華産業の賢い選択があった。



写真1 <西華産業株式会社本社>

intra-mart アプリを導入。 自社に最適な形でカスタマイズする。

97年12月、西華産業はintra-martの存在を知る。「intra-martは、エンドユーザに使い勝手の良いWebブラウザベースで本格的なWebアプリケーションを構築できるツールである。カスタマイズ性やコスト問題も解消できるとの感触を得たことで、IT委員会が《人事管理システム》と《イントラネット・スタートバック》の採用を決定した。」(清水氏) WebアプリをJavaなどでゼロから構築することは膨大な労力を投下しなければならないことから、自社開発は西華産業担当者の念頭にはなかった。西華産業で考えていた人事管理システムは、基本となる人事データを核に、関連情報が有機的に連携するというものだ。西華産業は、intra-martの人事管理システムを自社のニーズに合わせて手軽にカスタマイズすることができた。新人事システムでは、住所変更や通勤情報、扶養情報などを社員が自らWebブラウザで登録できるため、総務部の付加軽減につながる。また、人事帳票や組織変更情報などの履歴管理が行えるようになり、一日研修を受ければ誰もが帳票の加工を行うことができるといった簡便性がある。

西華産業の選択とは、結局のところ問題はコンピュータに関するマンパワー不足とコスト削減であるから、「カスタマイズ性とメンテナンス性に優れたパッケージを選択し、必要に応じて自社のニーズに合わせて最適なシステムとして手直しをしていけばよい」(清水氏)ということである。また、この賢い選択に応ずる能力がintra-martにはあったといえる。

中堅企業のイントラネット構築を 推進する intra-mart.

西華産業では、intra-martで構築された業務



写真2 <人事管理システム画面 - 1>

パッケージを導入して、必要に応じて自社でカスタマイズをおこなうというスタンスを採っている。ここで西華産業がintra-martの業務パッケージを選択した理由を具体的に検証してみると次の4つのポイントが挙げられる。

intra-martアプリケーションはソースコードを公開しているため、Webアプリケーション構築ツールのintra-martベースモジュールを購入すれば自社でカスタマイズできること。この点に関しては、さらに重要なコストのメリットもある。通常はクライアント数に応じたライセンス料がかかるが、intra-martベースモジュールの場合はサーバ単位の固定制であるため、クライアント数には無関係なのである。そのため、クライアント数が増えてくると、1桁から2桁違うくらいのコストメリットがでてくる。カスタマイズによって常に最適なシステムを維持していこうとする中堅企業にとっては、優れたメリットの1つである。

カスタマイズをするためには、intra-martベースモジュールを使いこなさなければならないが、Javaなどに比べてはるかに習得の容易なJavaScriptでビジネスロジックを記述するため高度なコンピュータリテラシーを必要としない。しかも、intra-martベースモジュールは開発に必要となる各種機能をオブジェクトや関数としてモジュール化しているため、ゼロから記述するわけではなく、各モジュールを活用するという感覚でカスタマイズが行えるのである。

intra-martはブラウザ/Webサーバ/データベースという本格的3階層アーキテクチャに対応しているため、アプリケーションのバージョンアップもWebサーバにインストールするだけで済んでしまい、各クライアントを意識する必要がない。このため全国に拠点数が多く、メンテナンス要員をおく余裕のない企業であってもまったく問題ない。「社員数のわりに営業拠点多く、専任の管理者を配備できないため、管理担当部門の大きな負荷軽減につながる点が評価できる。」(清水氏)

intra-martアプリケーションはインターネットでなじみ深いWebブラウザ画面で操作することになるため、コンピュータ初心者を含む幅広いエンドユーザにやさしいインタフェースを与えている。ユーザインタフェースが簡易で快適である点は、ベーシックな部分だが重要なことである。また、このことでデータエントリーなどで特定の部門や社員に負担がかかることもなくなる。

「我が社独自の商習慣や幅広い業種にわたる顧客ニーズに対応せざるを得ない立場から、

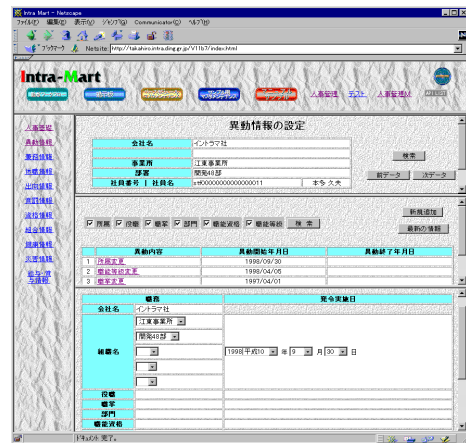


写真3 <人事管理システム画面 - 2>

パッケージだけでは解決できないシステムへの要求を短期間で容易にカスタマイズできる点、運用しながら修正し、労力やコストをかけずに業務アプリを再配備できる点に大きな魅力を感じた。」(清水氏)

さらに意欲的に。イントラネット上 でNCの有効活用を図る。

西華産業では、さらなるコストダウン、業務効率の向上を図るためにクライアントコンピュータとしてNC (Network Computer) を8台導入し、おもに人事情報システムのクライアント端末としてintra-martアプリケーションとの相性や操作性などを検証しているところだ。なんとといってもクライアントの導入コスト削減が狙い。部門によってはWORDやEXCELといったソフトが不可欠であったりと、NCの全社的導入には克服すべき問題も多い。だが、NCで間に合う業務は、NCを積極的に導入し、トータルな投資コストを抑えたい。

西華産業がNCを考慮してWebアプリのカスタマイズに取り組めるのは、どの企業にも比してマンパワーに優れているからという訳ではない。仮にマンパワーに欠ける中堅企業であっても、簡単にローコストでシステム構築やカスタマイズを実現させる「手軽さ」がintra-martにあるからであろう。西華産業はintra-martをベースにしたイントラネットに基幹系システムさえも連携させてダイナミックなシステム改善、業務変革を進行させている。西華産業におけるイントラネット構築の取り組みは、これからの情報システムの進むべき重要な指針を示している。必ずや、他企業にとっても参考になるであろう。

お問い合わせ・ご相談は下記までどうぞ

NTT DATA GROUP
NTTデータイントラマート



株式会社 NTTデータ イントラマート

〒107-0052 東京都港区赤坂3-21-16 赤坂3丁目ビル6F
TEL (03) 5549-2821 FAX (03) 5549-2816
E-mail: info@intra-mart.com
ホームページ: http://www.intra-mart.com/